

東奥日報

2026年(令和8年)5月2日(土曜日) (15)



八戸の味 弁当で発信

あおもり
国スポ
選手らに提供へ

八戸

「青の焔めきあおもり国スポ・障スポ」八戸市実行委員会は4月30日、同市で開かれる国スポ競技の選手らに提供する弁当メニューをお披露目した。市内の高校生と大学生がメニュー考案や外箱デザインを担った弁当で、八戸の味を発信する。(尾坂拓哉)

「HACHINOHEおもてなし弁当」と銘打ち、5種類を開発。五穀味噌の唐揚げや、南部せんべいのみが入った八戸球姫牛のバラ焼き、八戸美保野ホークの陸奥八仙酒かす漬げなど、地元産食材をふんだんに使用した。

外箱は市郷土玩具・民芸品の八幡馬と南部菱刺しの模様を取り入れたデザイン、ウミネコや市マスコットキャラクターをあしらったものなどを用意した。

メニューは千葉学園高校調理科の8人が考案したおかず22品から写真：国スポで選手、監督らに提供される弁当

10月の大会期間中、選手やチーフスタッフら向けに4千食ほど準備する。

市内高校生、大学生 メニュー考案、外箱デザイン



弁当開発に携わった千葉学園高生や八戸工大学生ら

また、同市湊町の和食店「やま文」では6月、弁当メニューを定食として食数限定で提供する予定。

※「この画像は該当ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」